

一般質問 町政を問う



12議員が質問

一般質問とは、議員が町の行財政全般に対し、疑問点を質問し確かめることです。会派の代表が質問する「会派代表質問」と、個々の議員が質問する「個人質問」があり質問時間は答弁を含め50分以内です。

ページ

質問者(登壇順)

質問事項

7 福本 貴久 ・平成30年度予算編成について

8 鈴木 一也 ・いじめ・不登校について

9 富永 良一 ・地域コミュニティバスの利便性向上について
・期日前投票と投票率UPについて

10 上 青木 宏和 ・国民健康保険税について

下 久野 勇 ・武豊町における高齢者施策について

11 上 石川 義治 ・武豊町立図書館の運営について

下 石原 壽朗 ・家庭系ごみの再資源化について

12 上 岩瀬 計介 ・美観、景観政策づくりについて
・町内公共施設トイレ事情について

下 本村 強 ・ゴミ出しルールと住民周知の方法について

13 上 甲斐 百合子 ・病児病後児保育について
・成人の口腔ケアについて

下 櫻井 雅美 ・指定管理者事業報告書・評価の公表について
・0歳児の保育拡充について

14 上 梶田 進 ・大気汚染測定局の設置について
・工場立地法の一部改正について
・鹿狩池の浄化について



政和クラブ
福本 貴久 議員

町政65周年に 想定される事業は

第6回ふれあい山車まつりなど

平成30年度予算編成方針の中で、新たに追加された事項について質問する。

アンケート調査や ワークショップを開催

問 ともに創るまちの中で「目指すまちづくりの方向性や、それを実現するための施策などを定める指針となる第6次総合計画の策定に向けた準備を進める」とあるが進め方をつかがう。

答 企画部長 平成30年度は、調査研究を進め、町民から幅広く意見収集をするために、アンケート調査の準備をする。

平成31年度に3000人を対象にアンケート調査を実施し、公募による町民と職員がワークショップなどを行い、総合計画の素案の策定作業を進めていく。

平成32年度は、審議会にて意見聴取をした後、議会に図り、平成33年度から新たな総合計画のスタートを目指していく。

公衆無線LANの 環境整備を進める

問 安全に暮らせるまちの中で「災害時における新たな情報提供の手段の調査研究及び、災害時における音声通話以外の通信手段の充実改善を図るため一次避難所へ無線LAN環境の整備を推進する」とあるが、どのような整備を検討しているのか。

答 総務部長 大規模災害などの緊急事態に、避難者や帰宅困難者の通信手段を確保するため、避難所指定されている各小中学校・高校・町民会館・総合体育館などに、インターネットを接続できる公衆無線LAN環境整備を近々に進めていく。

受入れ対象を 小学6年生まで拡大

問 子どもが健やかに育つまちの中で「緑丘・衣浦・富貴児童クラブの定員の増加を見据えた措置を講ずる」

とあるが、どのような措置を講ずるのか。

答 健康福祉部長 平成30年度からは、受入れ対象を小学6年生までに拡大する。学年も大きく異なっている中で、支援員には、子ども一人ひとりの発達過程を踏まえた育成支援が求められるので、支援員の資質向上を図り、受入れ体制を整える。

衣浦みなとまつり 花火大会も実施

問 活力に満ち誇りをもてるまちの中で「町政65周年となる平成31年度に向け、記念事業の準備を進める」とある。前回の町政60周年を踏まえ、どのような事業が想定され進められるのか。

答 町長 定着している事業として、「みなとまつり花火大会」「記念式典」「ふれあい山車まつり」を実施する方向で進めていく。平成30年度には、プレイベントとしての事業も実施



したいと考えている。



きずな
鈴木 一也 議員

不登校対策にスクールソーシャルワーカーを

問

近隣市町の取り組みを調査研究する

いじめ対策を

問 今年3月に武豊町いじめ防止基本方針が定められ、各学校でも基本方針が策定されたが、どのような取り組みをするのか。

答 教育部長 町・学校・地域や関係機関・保護者が、それぞれの役割を果たしながら、今まで以上に密接に連携していく。

各学校では、日常の観察やアンケートを実施し、早期発見・早期対応を重視し、地域では、下校時の見守りをしている。

保護者からは、児童生徒の様子の変化や、いじめではと思われる事案の連絡が届いたりもしている。

問 協議会や委員会の設置は。

答 教育部長 6月に「いじめ問題対策連絡協議会」総会を開催し、学校・町関係者・知多教育事務所・警察・児童相談センター・PTA・

民生児童委員・人権擁護委員など多くの機関が、基本的な考え、情報を共有した。各学校では「いじめ防止対策委員会」を定期的に行うなど機を逸することなく対応している。また、重大事案が発生した場合は「いじめ問題専門委員会」を招集する。

問 今後増えていくと思われるSNSによる、いじめ防止の対策は。

答 教育部長 学校でネット社会でのマナーやSNSトラブルなどによる、いじめ防止や効果的な対応について学んだり、保護者向けの講習会を開催したり、PTA総会などで啓発活動などの取組が必要と考えている。

不登校対策を

スクールサポーター・カウンセラー・ソーシャルワーカーの連携が最大の効果を生むのでは。

問 不登校になる前の、登校しぶりの児童・生徒への対策は。

答 教育部長 欠席が増えたり、家庭から登校しぶりの情報を得たりすると、家庭訪問や保護者との相談、登校した時の声かけなど、いつも以上に見守りを厚くしている。

また、支援が必要な子供には、ユニバーサルデザインの考え方を生かした授業や、Q-Uテストを参考に学級経営をしている。

問 今後、今まで以上に、各機関や各方面と連携していかなければならないが、先生たちの激務や、非常勤によるスクールサポーターやスクールカウンセラーだけでは対応しきれないと思う。スクールソーシャルワーカーの起用が必要では。

答 町長 武豊町では、スクールサポーターが、毎日不登校傾向にある児童生徒の家庭を訪問し、相談活動や引率業務を行っている。指導主事と各学校の担当者も、月1回の要保護対策連絡協議会などで、虐待が心配される家庭などの情報交換をしている。緊密な連携体制のもと、ケース会議の開催や、外部機関への通告も進められていることから、現段階ではスクールソーシャルワーカーの配置は考えていない。



■適用指導教室「ステップ」のある砂川会館



公明党議員団
富永 良一 議員

問 コミュニティバスのフリー券を

答 調査・研究していきたい



■武豊コミュニティバス「ゆめころん」

75歳以上にフリーパス券の発行を

問 運転免許証の自主返納の方はもとより、75歳以上の方にコミュニティバスの方フリー券の発行を検討してはどうか。

答 総務部長 利用しやすい制度としたいが、受益者負

担の原則を念頭に入れた総合的な判断であるから、現時点では考えていない。

今後は、利用者や地域公共交通会議の多くの意見と、他市町を参考にしながら、高齢者が利用しやすいバスのためた公共交通事業にするため調査・研究をしていきたい。

問 利用しやすいように、半年とか年間バスポート券を発行する事はできないか。

答 防災交通課長 定期券のようなものと思うので、今後の課題として捉えていきたい。

各停留所に椅子の設置を

問 椅子の無い停留所が北回り（赤ルート）で10カ所、南回り（青ルート）で9カ所ある。民間の敷地内など難しい所もあるが、公道では工夫すれば設置ができると思うがどうか。

答 防災交通課長 できる所は設置しているが、「地域公共交通会議」などで検討して進めてきたい。

期日前投票所の増設による投票率のUPを

問 平成30年7月に選挙システムの更新時期を迎えるが、入場券の裏面に宣誓書の印刷ができないか。

答 選挙管理委員会書記長 平成30年度のシステム変更は、ハードウェアを中心に切り替えをするので、来年の更新時はソフトウェアは変えずに今のまま使う。

問 他市町や近隣の市町でショッピングセンターなどに期日前投票所を設けて、利便性向上に努めて投票率のアップにも繋がっている。一度やってみてはどうか。

答 総務課長 他市町と比べて駅と庁舎が近く利便性も良いため、期日前投票所の増設は考えていない。提案として受け止めさせていた



■コミュニティバス停留所